島根県CDEコアカリキュラム

Ⅰ　糖尿病の知識

１．疫学

ａ　糖尿病の罹患率と有病率、合併症の有病率、死亡率と死因について説明できる

ｂ　糖尿病の予防（一次、二次、三次予防の視点と概要）について述べることができる

２．病型、成因

ａ　糖尿病の分類
ＷＨＯ分類について述べることができる

ｂ　成因（1型、2型、その他）についてそれぞれの病態と関連づけて説明できる

３．病態・臨床症状
インスリン分泌能とインスリン抵抗性について説明できる

ａ　インスリンの生理作用について述べることができる

ｂ　インスリン作用不足による糖尿病の病態・症状について説明できる

４．診断

ａ　日本糖尿病学会の診断基準に関する勧告値とその解説ができる

ｂ　診断のための検査をあげ説明できる

５．治療

ａ　治療の目的（血糖コントロールの指標を含む）を述べることができる

ｂ　栄養学的な見地に立って食事療法の意義と実際について述べられる

ｃ　運動療法の意義（急性・慢性効果などを含む）と実際（適応と禁忌、具体的な実施方法などを含む）について述べられる

ｄ　薬物療法について経口剤とインスリンに分けそれぞれの糖尿病治療における位置づけ、用法、用量、副作用など基本的な事項について説明できる

６．合併症
合併症の成因（ポリオール代謝異常、グリケーション、その他）、種類、病期分類、治療について述べることができる

ａ　糖尿病に特有な合併症

・急性合併症（糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン性高浸透圧性昏睡、乳酸アシドーシス、低血糖症）の病態と治療について概略を述べられる

・慢性合併症（糖尿病網膜症、腎症、神経障害）について診断、病期、治療法について概略を述べられる

ｂ　糖尿病に特有でないが頻度の高い合併症

・急性合併症（感染症）

・慢性合併症（動脈硬化症－脳血管障害、虚血性心疾患、下肢閉塞青銅脈硬化症など、白内障、骨・関節症、歯周疾患、その他）について説明できる

７．糖尿病と妊娠

ａ　妊娠による代謝の変化を説明できる

ｂ　糖尿病妊婦の特徴（母体への影響、胎児への影響、周産期の異常、授乳中の問題点など）について述べられる

ｃ　妊娠糖尿病の定義とフォローアップの必要性について説明できる

Ⅱ　糖尿病の療養指導

１．療養指導士の役割と責任

ａ　CDEの必要性、役割を十分理解する

ｂ　医療法を遵守し法的規制の中で行うことを十分に確認する

２．糖尿病の予防と診断

ａ　糖尿病予防の重要性を説明できる

ｂ　糖尿病の一次予防のために家族教育、地域教育、職場教育などの重要性を理解し実際に個別・集団教育することができる

ｃ　検診の重要性を指導しなぜ検査が必要か説明できる

ｄ　血糖値（空腹時、随時）の意味を説明できる

ｅ　血糖コントロールの指標（グリコヘモグロビン、1,5ＡＧ、グリコアルブミン）について説明できる

ｆ　二次検査を必要な者になぜ必要か説明でき、血糖検査（空腹時、随時）の再検ならびにブドウ糖負荷試験の適応と意義について説明できる

ｇ　経口ブドウ糖負荷試験の受け方の説明ができる

ｈ　検査成績を解説しその意味を説明できる

ｉ　合併症所見（網膜症）も糖尿病の診断に含まれることを説明できる

ｊ　糖尿病と診断された根拠について説明できる

ｋ　患者の病型について治療との関連の上で説明できる

ｌ　治療の必要性、治療の目標について説明できる

ｍ　境界型と診断された者にその意味と糖尿病予防のための生活指導ができる

３．食事療法の指導

（１）食事療法の意義と目的について指導ができる

（２）適正な摂取エネルギーの決め方と栄養素の配分について指導ができる

（３）食品交換表を用いる食事指導ができる

（４）食事記録の書き方を指導できる

（５）アルコール飲料や間食、補食について説明し個別に指導ができる

（６）献立と盛りつけの指導ができる

（７）食品の計量と目安量の指導ができる

（８）外食指導ができる

（９）肥満の食事指導、年齢や活動量に応じた食事指導ができる

（10）不規則な食事習慣の者により良い食事療法について一緒に考え実際的な助言ができる

４．運動療法の指導

（１）運動療法の意義と目的について説明できる

（２）運動の種類、強度、実施時刻と持続時間などについて指導ができる

（３）実際の運動療法を指導できる

（４）運動量の急性・慢性効果について指導ができる

（５）運動療法の禁忌、弊害について説明できる

（６）低血糖の予防のための補食について指導ができる

（７）ライフスタイルに合わせた運動療法の取り入れ方について一緒に考え具体的に助言できる

５．薬物療法の指導

ａ　経口血糖降下剤

（１）糖尿病治療における経口剤の位置づけについて説明できる

（２）ＳＵ剤、ＢＧ剤、αＧＩ、ﾁｱｿﾞﾘﾝ系薬剤の薬理、適応、用量・用法、副作用に関してわかりやすく説明できる

（３）患者の理解度に合わせて服薬指導をすることができる

ｂ　インスリン療法

（１）患者がインスリン療法の位置づけを理解し受け入れられるよう指導、援助ができる

（２）インスリン療法の意味、目的、適応について説明できる

（３）インスリン製剤の種類と特徴、注射器材について指導できる

（４）患者に指示されたインスリン注射製剤の種類、注射時刻・回数・用量について指導し、インスリン自己注射技術の指導ができる

（５）インスリン注射療法時の食事・運動療法の留意点について指導ができる

（６）スライディングスケールの功罪について理解し主治医の方針を指導できる

ｃ　低血糖

（１）低血糖の症状と予防、適切な処置について説明できる

（２）グルカゴン注射の意味と使用法を指導できる

（３）重症低血糖時の対応について指導できる

６．セルフモニタリング

（１）ＳＭＢＧの目的と適応について説明できる

（２）ＳＭＢＧの手技、記録、測定時刻、回数などの指導を行い機器の点検や測定値の精度管理ができる

（３）尿糖、尿ケトンの測定の指導ができる

（４）自己管理の自己評価の方法について指導ができる

・食事・運動・服薬・インスリン注射などの実施状況とそれに伴う感覚・感情の自己評価

・血糖コントロール状態、HbA1c、体重、症状（副作用を含む）などの経過から見た自己評価

（５）糖尿病手帳の使用法について指導ができる

７．高血糖、Ｓｉｃｋ Ｄａｙの対処

ａ　偶発症（感染症、外傷、外科手術、心筋梗塞、脳卒中、肝疾患など）の対応について指導できる

ｂ　Ｓｉｃｋ Ｄａｙ時の症状と処置について指導できる

ｃ　緊急連絡、緊急受診が必要な時（高血糖、ケトアシドーシスなどを含む）の条件・方法について指導ができる

８．眼科的合併症

ａ　網膜症に関して以下の点について説明できる

（１）眼科医による定期的経過観察の必要性。特に自覚症状がなくても経過観察が必要であること

（２）進展形式について

（３）活動期の身体活動について

（４）蛍光眼底検査、光凝固療法について

（５）硝子体手術について

（６）急速血糖コントロールの影響について

ｂ　白内障について治療の意義と方法などについて概略を説明できる

ｃ　視力障害者

（１）視力障害者の自己管理について援助・指導ができる

（２）視力障害者が利用できる社会的支援システムについて説明できる

９．神経障害

（１）神経障害の自覚症状について説明し実際の症状を聴取しその苦痛を理解できる

（２）神経障害のある患者の心理的援助ができる

（３）自律神経障害の種類、症状、検査、ケアについて説明・指導ができる（起立性低血圧、無自覚低血糖、発汗異常、消化管運動障害、無力性膀胱、性機能異常など）

（４）各種神経障害の対症療法薬の作用と服用法について説明できる

１０．腎症

（１）腎症の病期分類について説明できる

（２）定期的な腎機能検査の必要性

（３）蛋白・食塩・カリウムなどの制限、摂取エネルギー量の変更が必要な時期について理解し、糖尿病性腎症の食品交換表を用いて主治医の方針の指導ができる

（４）血圧管理の重要性について説明できる

（５）透析療法が必要な時期について説明し患者の受け入れができるよう心理的な援助ができる

（６）血液透析、腹膜透析の概略を理解し透析療法中の日日常管理について説明できる（食事療法、水分制限、シャント・出口部ケア、ＣＡＰＤバッグ交換などを含む）

（７）透析療法者が利用できる社会的支援システムについて説明できる

１１．大血管症

（１）体重、血圧、血清脂質などを適切に保つことの重要性を指導できる

（２）関連した検査が定期的に行われる理由を指導できる

（３）脳血管障害、虚血性心疾患、下肢閉塞性動脈硬化症の症状と受診が必要な症状・時期について説明できる

（４）現在治療中の者に対して基本的な生活指導や服薬指導などができる

１２．フットケア、口腔ケア、一般的保健指導
a　フットケア
（１）足のケアはなぜ必要か説明できる
（２）足のケアの実技（洗い方、爪の切り方、靴の選び方、自己診察法など）の指導ができる
b　歯および歯周疾患の指導
（１）歯の衛生に関して（歯周疾患、齲歯）について説明できる
（２）歯のケア、歯科治療時の注意について指導ができる
c　一般的な保健指導
（１）嗜好品（コーヒー、茶、お菓子など）について説明できる
（２）喫煙と合併症の関係を説明し、禁煙を指導できる
（３）旅行中の注意事項を説明できる

１３．妊娠と糖尿病
a　妊娠中の厳格な血糖コントロールの必要性について指導ができる
b　妊娠糖尿病について説明し代謝管理を指導できる
c　妊娠計画中の糖尿病患者の指導ができる
d　糖尿病患者の妊娠中のケアについて指導できる
e　糖尿病患者の産褥期・授乳期のケアの指導ができる
f　育児について助言・指導ができる

１４．小児・思春期の糖尿病
a　発達、年齢に応じた食事指導、生活指導ができる
b　発達、年齢に応じた心理的な援助ができる
c　小児糖尿病キャンプの意義について説明できる
d　患児にかかわる家族、学校、職場などの協力の重要性を理解し指導ができる

１５．高齢者の糖尿病
a　高齢者の生理的特徴をふまえた指導ができる
b　高齢者の心理的特徴をふまえた指導ができる
c　老人家族、施設入居、ケアのキーパーソン、社会支援の受け方などについて指導ができる

１６．理解力の低い患者への指導
a　適切な目標設定を行い実際的な指導・援助ができる

１７．ストレス管理
a　ストレスと糖尿病について説明できる
b　ストレス時の対処について助言できる

１８．治療の継続と生涯教育
a　経過観察と継続治療の重要性を説明できる。
b　ホームドクターをもつことの重要性と専門病院を受診することの意義とタイミングについて説明できる
c　関係する他の診療科の受診が必要であること、およびその受診法を指導できる
d　糖尿病は生涯教育が必要であることを説明できる
e　利用できる教育の場や機関、糖尿病協会について説明できる

<u>Ⅲ　療養指導の計画と評価</u>
１．療養指導前の患者の評価と療養指導の計画
a　療養指導前の患者について以下の見地から評価を行うことができる
（１）糖尿病の受容、教育程度、学習能力、問題処理能力、主体性、適応、自己効力、学習の準備状態など
（２）生活状況調査（家族、家計、家庭機能、食生活、職場、学校など）
（３）社会的問題点の評価（社会的不適合、経済的問題、職業訓練、神経障害・視力障害による問題、心理的不安定など）
b　療養指導計画を作成することができる
（１）それぞれの施設における療養指導プログラム（個別指導・集団指導）の作成するために療養指導すべき知識・技術・態度を明らかにし、作成に参画できる
（２）個々の患者について到達目標を設定できる

２．療養指導の実践
（１）十分なインフォームド・コンセントのもとに療養指導を行うことができる
（２）集団教育への参加の適否、家族参加の必要性の有無などを判断し指導できる
（３）わかりやすい指導技術を検討し個別・診断指導ができる
（４）患者に信頼される面接技術を検討し実践できる
（５）療養指導の実践のために医療チームの中でマネージメントができる

３．療養指導の評価と修正
a　患者の評価
（１）知識・技術の獲得について評価できる
（２）行動の変容について評価できる
（３）療養指導の内容についての患者側の自己評価（糖尿病状態の改善度やそれに伴う感覚、感情などを含む）をもとに患者とともに療養指導の評価を行い到達目標の修正を行うことができる
b　療養指導計画の評価
（１）成果から見た評価
（２）内容に関する評価
（３）適応に関する評価
（４）指導技術の活用から見た評価
c　それぞれの施設での療養指導を評価するための判定基準の作成ができる
d　評価をカリキュラムの改善に活用することができる

４．療養指導士としての学習とその自己評価
a　新しい知見を得る機会を持ち実践することができる
b　療養指導士同士の相互評価ができる
c　より良い指導内容とするために常に工夫・努力をしそれについての成果を検討・評価ができる
d　療養指導に研究的に取り組み発表・ディスカッションができる